

平成29年5月12日

第20回「信用金庫社会貢献賞」の受賞活動決まる！
「特別支援学校の生徒たちへの金融教育」の
かながわ信用金庫（神奈川県）が会長賞に

一般社団法人全国信用金庫協会

全国信用金庫協会（会長：佐藤 浩二）が実施している、信用金庫業界の顕彰制度第20回「信用金庫社会貢献賞」の受賞信用金庫、個人受賞者がこのほど決定いたしましたので、お知らせします。

第20回「信用金庫社会貢献賞」受賞活動

賞の種類	信用金庫名（都道府県）	受賞活動名
会長賞	かながわ 信用金庫（神奈川県）	特別支援学校の生徒たちへの金融教育
Face to Face 賞	稚 内 信用金庫（北海道）	コミュニティ誌「JUST NOW」発行
	しずおか 信用金庫（静岡県）	谷津山の再生活動と環境教育
	大 阪 信用金庫（大阪府）	大阪芸術大学との産学連携プロジェクト
個人賞	小 樽 信用金庫（北海道） しもなか ひろぶみ 下中 博文 氏	「おたる案内人」としての観光振興活動
	二本松 信用金庫（福島県） おおうち まなぶ 大内 学 氏	安達太良山の登山道整備と安全登山普及
	焼 津 信用金庫（静岡県） なかにし ともじ 中西 智司 氏	青少年を見守る地域防犯活動
地域活性化しんきん 運動・優秀賞	北 上 信用金庫（岩手県）	西和賀町 地域デザインプロジェクト
	磐 田 信用金庫（静岡県）	ブラジル人コミュニティへの独自支援

本賞は、地域に生まれ、地域と共に歩む信用金庫が、様々な分野で地域貢献・社会貢献活動を実践している真摯な姿を多くの方々に知っていただくとともに、地域における存在価値を一層高めていくことを目的に、平成9年に創設いたしました。このような、地域に根ざした永年にわたる信用金庫の地道な活動に光を当て、これを顕彰することは大きな意義があると考えております。

今回は、昨年10月から12月までの募集期間に、166信用金庫・3関係団体から593件の応募がありました。その活動内容は多岐にわたっており、環境保全や社会福祉、金融教育支援、高齢化社会への対応のほか、東日本大震災からの復興支援、地域活性化への取組み、次世代経営者の育成、取引先の販路拡大策など、どれも地域に根ざした信用金庫の不断の努力と叡智を結集したものとなっています。選考委員会での厳正な審査の結果、会長賞をはじめとする受賞6信用金庫、個人賞受賞3名の活動が決定いたしました。なお、来る6月21日（水）開催の第140回全信協通常総会において表彰式を執り行う予定です。

 <参考> 第20回「信用金庫社会貢献賞」応募状況

地区別応募状況

地区名	金庫・団体数	応募件数
北海道	12	35
東北	14	44
関東	33	93
東京	15	47
北陸	7	16
東海	27	130
近畿	23	112
中国	12	50
四国	4	8
九州北部	7	17
南九州	12	36
団体	3	5
合計	169	593

活動分野別応募状況

活動分野	応募件数
地域社会活動	369
スポーツ	47
社会福祉	29
芸術・文化	25
教育	49
環境	47
健康・医学	6
国際交流	0
史跡・伝統文化保存	4
災害救援	17
学術	0
合計	593

本件についてのお問合せは、全国信用金庫協会 広報部 小曾根、自在丸、鈴木、坂本 (TEL.03-3517-5722 FAX.03-3517-5792)までお願いいたします。

第20回「信用金庫社会貢献賞」の選考総評と受賞活動の概要

1. 選考総評 信用金庫社会貢献賞20年で見える地域課題の変化と信金パワーの可能性

選考委員 高橋陽子氏（公益社団法人日本フィランソロピー協会理事長）

今年で20回目になる「信用金庫社会貢献賞」。特に細かいテーマを設けているわけでもないが、やはり時代の流れや社会課題の変化が応募事業にも見て取れる。審査する側も、そのことに向き合い、また、信用金庫の精神に鑑みて、「不易流行」を心に留めながら審査することを、昨今、特に意識するようになった。会長賞はかながわ信用金庫の「特別支援学校の生徒たちへの金融教育」。昨今、ダイバーシティ（多様性）やソーシャルインクルージョン（誰も排除されないこと）という言葉が企業や学校でも注目されているが、これは、福祉として、障がい者や高齢者などを支援する、ということだけではなく、誰しも、社会の一員として大切にされ、それぞれに役割を果たしていくために支え合うということである。この精神に根ざした活動を10年続けている。地道でかつ先駆的な活動が、他金庫にも広がってほしいと願う。磐田信用金庫のブラジル人コミュニティへの支援も高く評価できる。在日外国人数は、平成27年末で223万人を超え、前年末より5.2%増加している。各地で外国人コミュニティができていくが、それを孤立させるのではなく、日本人のコミュニティに包含するためにも、民間企業の活動は行政の壁を越え、ともに楽しみ学ぶ機会をつくることで、偏見や差別を取り除くことにも大いに役立つと思う。

もう一つ、今の日本の大きな課題として、“地域活性化”がある。産業がないと人は流出する。それぞれの地域で様々な工夫がされている。稚内信用金庫は、28年にわたり地域の経営者の地元への思いや挑戦に光を当て、地域の人たちを力づけてきた。これは若者へのビジョン教育に資する活動であることがうかがえる。

北上信用金庫の「地域づくりデザインプロジェクト」は、岩手県西和賀町の魅力を発信し、地域活性化に向けて、事業者・アーティスト・役所も取り込みながら地域再生のために尽くしている。このプロセスが町の人たちの心を興し、郷土愛醸成の事業となっている。

さらに、大阪信用金庫の大阪芸術大学との協働事業は、若者のアートの可能性を発掘、しずおか信用金庫の谷津山再生プロジェクトは、自然環境保護と次世代育成、若者支援と各テーマの掛け合わせであり、各地で展開できる好例である。

個人の活躍も、郷土への愛・次世代を担う子どもたちへの愛にあふれ、特筆すべきものだ。二本松信用金庫の大内さんは、いくら山好きとは言え、35年もの間、安達太良山の登山道整備やパトロール、登山案内など、縁の下の力持ちとしての活動を粘り強く続けておられることには、登山者皆とともに感謝したい。

焼津信用金庫の中西さんは、13年間、子どもたちの見守り・声かけ活動を行っている。ある児童専門の精神科の先生に教えてもらったことがある。「厳しい境遇にある子どもの中でも、そのまま落ちていってしまう子と、乗り越えて頑張る子がいる。その違いをつくる大きな要素は、身近に自分のことを真剣に考え見守ってくれる大人がいるかどうかだ」。夜の9～11時が主な活動時間帯。仕事が終わってゆっくりしたい時間だ。こんな大人の存在に、どれだけの子どもたちが救われたらどうか。

小樽信用金庫の下中さんは、「おたる案内人」として小樽の魅力を観光客などに伝えて11年。小樽の魅力伝道師としての活動は、若き職員にも引き継がれている。楽しんで説明しておられる姿が目につかぶ。

20周年を迎え、これまでの受賞金庫の貴重な活動の数々を、改めて全国の信用金庫と共有することで、各地で信金パワーが発揮され、地域経済の発展と、そこに住む人々の幸せ創りに資することになれば、社会貢献賞に携わらせていただいた者として、こんなにうれしいことはない。

2. 受賞活動の概要

【会長賞】

かながわ信用金庫（神奈川県）／特別支援学校の生徒たちへの金融教育

かながわ信用金庫は、神奈川県横須賀市や藤沢市にある養護学校の先生をはじめ、その保護者の方々から「これから巣立っていく生徒たちに、社会生活で役立つ知識を学ばせてあげたい」との要望を受け、平成22年、特別支援学校の子どもたちへの金融教育活動を開始した。

活動の中心となる出前授業は先生方と協議を重ね、お金の大切さをゲーム形式によって楽しく学べるとともに、実際に営業店でATMの使い方や、窓口で普通預金の口座開設をするなど、実践的で充実した内容となっている。

また、地域に暮らす人々と社会福祉関係者、保健・医療・教育など関係機関の参加・協力のもとで行われる地域イベント「ふれあいフェスティバル」では、養護学校と共同で模擬店を出店。生徒たちは、自分たちが制作したオリジナルの革製アクセサリ、ポップコーンの販売などに携わり、障がいを超えて様々な体験から経済を学び、人との出会いを体感している。

同金庫は26年11月、子ども・子育て支援に取り組み、地域貢献している事業者や個人・団体を表彰する神奈川県主催の第8回かながわ子ども・子育て支援大賞「奨励賞」を受賞。取り組んできた出前授業も複数の養護学校に広がり、28年度末までに38回を数えた。

地域にとって、頼りがいのある「強くてやさしい信用金庫」「よろず相談承り信用金庫」をめざす同金庫。このまちの人々に、なくてはならない存在になっている。

【Face to Face 賞】

稚内信用金庫（北海道）／コミュニティ誌「JUST NOW」発行

稚内信用金庫は「地域と共に繁栄します」を合言葉に、地域密着型の営業活動とまちの活性化をめざす同金庫のオリジナルツールとして、平成元年11月、まちのホットでリアルな情報を発信するコミュニティ誌「JUST NOW」を発刊した。

営業エリアの観光スポットや特産品のほか、地元でがんばる中小企業のインタビューや商品の紹介、様々なイベントなどで見せる住民の元気な様子など、地域の最新ニュースを年に4回、お客さまをはじめ、地域の方々にお届けしている（29年2月現在、第107号発行）。

同誌は金庫全店舗のロビー、ATMコーナー、公共施設、まちのレストランや理美容室などで手にできる生活に根付いたPR誌。金庫の営業活動に役立つだけでなく、地域企業や商店のPR媒体として幅広く活用することで、新たなビジネスマッチングにもつながっている。地元の時計店を紹介した際には、周辺地域だけでなく、250km以上離れた北海道旭川市などからも、時計修理の依頼や問い合わせが相次いだ例もある。地域を超え、地元企業の魅力を伝える媒体が果たす役割は大きい。地元にいるからこそ見える、まち、企業、人の魅力を掘り起こし、発信し続ける「JUST NOW」。創刊からまもなく30年。道内だけにとどまらず、全国へ情報発信することで地元経済の活性化をめざす、まさに稚内の顔とも呼べる存在に成長した。

【Face to Face 賞】

しずおか信用金庫（静岡県）／谷津山の再生活動と環境教育

しずおか信用金庫本店に隣接する「谷津山」は、長年、放置竹林が広がり、森林への被害、大雨による土砂災害が危惧されていた。そうした中、同金庫が社会貢献活動の一環として、平成22年10月、谷津山再生のため開始した活動は、地元の市民団体とともに整備活動（竹の伐採、下草刈りなど）を定期的に行い、地域住民の憩いの場、子どもたちの環境教育の場として、里山を未来に残していこうという取り組みだ。

同金庫の経営企画部が事務局となり、活動現場は若手職員（1～3年目）がリーダーとして運営にあたる。この活動で地域の様々な人と協働することは、同金庫職員の人材育成にもつながっている。

具体的には、竹の伐採、下草刈りに加え、ガクアジサイやヤマブキの植え付けをするほか、伐採した竹の再利用のため「谷津山の竹を使って貯金箱を作ろう」という子ども体験教室も開催。また、地域のイベントに参加するなど、自然の大切さや里山保護の啓蒙活動にも努めている。26年3月、県と県緑化推進協会による静岡森づくり大賞「森を愛する人」部門入賞をはじめ、翌27年8月には環境省主催「環境人づくり大賞2014・奨励賞」を受賞。里山再生はまちづくりであり、人づくりである――まさにそれを実践し、人類共通の財産である森を、未来へ継承する活動だ。

【Face to Face 賞】

大阪信用金庫（大阪府）／大阪芸術大学との産学連携プロジェクト

大阪信用金庫は、地域貢献活動の一環として、地元大学で学生への教育支援を行っている。将来デザイナーを夢見る大阪芸術大学の学生に、実践的な作品発表の機会を設けることも支援活動のひとつ。知的財産である個性豊かなデザインの宝庫・大学と、お客さまとの多様なコミュニケーションツールを有する同金庫が連携し、実効性の高い地元志向の産学連携をめざすのが目的だ。

平成17年から、各通帳を「デザイン発表の場」として学生に提供し、20年には同金庫のあらましをコミカルにわかりやすく解説した小冊子『金融宣隊ダイシンジャー』（全6巻）を制作。さらにダイシンジャー・キャッシュカードを作るなど、新しく親しみのある作品を展開している。翌21年には同金庫「創業90周年」記念のためのポスター作成を募集し、応募の中から2作品を採用。ポスターとして各店に掲載した。23年からは、顧客向けに製作するスケジュール帳の表紙デザインを募集し、採用している。毎年、お客さまからも好評だ。

28年、大阪府との包括連携協定の一環で大阪府広報担当副知事「もずやん」と同金庫のイメージキャラクター「フラッティ」のコラボレーション作品を発表。これは各種イベントで活用され、産学官連携の成功事例に。良好なコミュニケーションを助けるデザイン力が発揮され、同金庫とお客さまとの距離を、ぐっと近づけることになった。

【地域活性化しんきん運動・優秀賞】

北上信用金庫（岩手県）／西和賀町 地域デザインプロジェクト

岩手県中西部、奥羽山脈の山岳部に位置する西和賀町は四方を山に囲まれた豪雪地帯。少子高齢化の急速な進展・産業の衰退などにより「県内で一番最初に消滅する町」と予測され、地域資源を活用した魅力ある地域づくり、ブランドづくりが大きな課題であった。平成26年11月、北上信用金庫と同町が「地域経済活性化に向けた包括連携協定」を締結。活力ある地域づくりの取り組みがスタートした。

翌27年9月、町、地元事業者、デザイナーと同金庫が連携し、全国初の「地方創生地域づくりデザインプロジェクト」が始動。この連携により「商品開発」「販路拡大」「情報発信」「金融支援」を一体となって実施し、地域資源を活用して“作る”から“売る”までをトータルに支援することとなった。検討を重ね、この土地の気候、風土を活かした新たな食のブランド“ユキノチカラ”が誕生。初夏に飛び交う美しい蛍をイメージしたわらび餅や、清らかな雪解け水で仕込む同町初のどぶろく、雪玉のようなそば粉のクッキーなど、地場素材を用いた商品のラインナップは豊富だ。

28年3月、東京ミッドタウン（港区六本木）で開催の「復興デザインマルシェ2016」で“ユキノチカラ”を発表、全国に向け情報発信した。本プロジェクトから生まれたこれらの商品は、ふるさと納税の返礼品にも採用されている。故郷を想うそれぞれの力が、地域活性化の原動力だ。

【地域活性化しんきん運動・優秀賞】

磐田信用金庫（静岡県）／ブラジル人コミュニティへの独自支援

磐田信用金庫のある静岡県西部地域は、平成のバブル経済時、輸送用機器製造で活況を呈していた工場などを中心に、慢性的な人手不足となっていた。平成2年の入管法改正を機に、労働力不足を補うため、ブラジルからの出稼ぎ労働者が急増。貴重な労働力として製造現場を支えてきた。

一方で、地域住民との生活習慣や言語の違いに起因する問題（騒音・ごみ処理等）が増えるなど、ブラジル人の生活習慣の向上や子どもたちの健全な生活環境の整備が求められていた。また、母国への送金（仕送り）などの対応が、地域課題として明らかになった。

こうした中、同金庫は、浜松ブラジル協会からの紹介をきっかけに、18年、ブラジル連邦貯蓄銀行（カイシャ銀行）と外国送金業務に関する業務提携を締結し送金手数料の優遇を開始。以降、ブラジル人コミュニティを対象に、無料法律相談、日本語教室、子ども向け「いわしんお金の教室」など、社会生活の多方面にわたる支援を続けてきた。また、対ブラジル人だけでなく、ブラジル関連ビジネスを検討している地域の中小企業に対しては、経済セミナーや経済ミッション（現地視察）を実施するなど、より多様な観点から支援の拡充・強化を図っている。

こうした外交分野の顕著な功績が認められ、25年には高木会長がブラジル政府から「リオ・ブランコ国家勲章」を受章という栄誉も。当金庫は、これからも日本とブラジルの“架け橋”として重要な役割を担っていくことを期待されている。

【個人賞】

小樽信用金庫（北海道） 下中 博文氏 ／「おたる案内人」としての観光振興活動

平成18年、観光都市・小樽の歴史・文化の知識を習得し、観光の本質を捉えた人材育成を目的に、産学官により「小樽観光大学校」が設立された。下中氏は、小樽を再認識するため、早速同校の検定試験を受験。“おたる案内人”となり、以来、一人でもできる地域貢献活動と位置付け、様々なイベントや勉強会、講演にも登壇するほか、「小樽雪あかりの路」等でボランティアガイドとして活躍している。小樽信用金庫では21年の「信用金庫の日」から、下中氏を中心に「小樽運河散策路」の清掃活動を毎年、実施している。アクティブな活動は27年、同校より表彰を受け、同年9月には同校理事に就任。まちの活性化、観光振興への想いはますます高まっている。

【個人賞】

二本松信用金庫（福島県） 大内 学氏 ／安達太良山の登山道整備と安全登山普及

大学時代に所属した山岳部での経験を活かし、あだたら山の会に入会・ボランティアを始めてから35年。平成25年4月には、同会会長に就任。活動は登山道の整備、パトロールなど多岐にわたり、昨年の夏、大雨で登山道の橋が流された際には、整備修復作業にもあたる。安達太良山遭難対策委員会では救助隊長を務めながら、市内小学校、育成会のイベントなどを通じ、ふるさとの山の魅力や、万が一の遭難対策を交えた安全な山の楽しみ方などを伝えている。二本松警察署長感謝状、二本松市体育協会スポーツ功労賞など、多くの表彰がこれまでの功績の証だ。

【個人賞】

焼津信用金庫（静岡県） 中西 智司氏 ／青少年を見守る地域防犯活動

P T A 役員を務めた際の、静岡県藤枝市補導員経験（約2年間）を機に、平成16年、少年警察ボランティア（少年警察協助員）に参加。活動は夜間（午後9～11時頃）の子どもへの「声かけ」だ。「彼らの境遇や考え方は様々で、対話の積み重ねが重要。子どもたちとのふれあいで、本音を聴き出すことを心がけている」と中西氏。声かけの効果はすぐには見えないが、彼らに、見守る大人がいるという「安心」や「温かさ」を伝え、様々な危険から守る地道な活動は、地域の安全対策にもつながる。静岡県警察本部長連名表彰など受賞歴多数。安心・安全なまちづくりの礎になっている。

以 上

＜参 考＞ **第20回「信用金庫社会貢献賞」について**

【創設目的】 地域に生まれ、地域と共に歩む信用金庫の原点を踏まえ、地域の発展に貢献する信用金庫の真摯な姿を広くアピールし、お客様や地域の信頼を揺るぎないものとするとともに、地域での存在感を一段と高めていく。

【対象活動】 信用金庫にふさわしい地域に根ざした活動で、地域振興、社会福祉、芸術・文化支援、史跡・伝統文化保存、交通安全、教育支援、留学生・在日外国人支援、環境保全、各種ボランティア等の地域社会活動および災害救援活動等の分野とする。

【表彰対象】 ・信用金庫および信用金庫役職員（個人・グループ）
・地区・府県信用金庫協会、中央団体

【選考基準】 活動の継続性（3年以上継続された活動であること。ただし、Face to Face賞の応募活動のうち、その特性から活動期間が必ずしも長期に亘らないもの、地域活性化しんきん運動・優秀賞は除く）、活動目的の社会的意義、地域との一体性（地域に溶け込んだ地域の方々と一体となった取組み）、活動の困難度、援助を受ける側の評価・感謝の度合い、関係者または地域社会に与えた影響、活動内容・方法のユニークさ、などを総合的に判断する。

【応募期間】 平成28年10月1日から12月30日まで

【選考委員】 ※所属等は平成29年3月現在、敬称略

石田 徹	日本商工会議所 専務理事
島田 京子	公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団 専務理事
高橋 陽子	公益社団法人 日本フィランソロピー協会 理事長
野坂 雅一	読売新聞東京本社 調査研究本部総務
堀田 力	公益財団法人 さわやか福祉財団 会長
村本 孜	成城大学 名誉教授
佐藤 浩二	一般社団法人全国信用金庫協会 会長
柴田 弘之	信金中央金庫 副理事長
小林 哲哉	一般社団法人全国信用金庫協会 広報委員会 委員長

【各賞の内容】

会長賞・・・活動の社会的意義、地域との一体感、地域社会に与えた影響等を総合的に判断し、Face to Face賞、地域活性化しんきん運動・優秀賞の受賞候補活動の中から最も優れた活動に対し与えるものとする。

Face to Face賞・・・地域金融機関にふさわしい、地域社会に溶け込んだ、地域の方々と一体感を深めることに寄与した活動および地域金融機関の社会貢献活動として今後の取組みが期待され、奨励される活動、ならびにその特性から活動期間が必ずしも長期に亘らないものであっても、環境・社会問題への取組み、災害復旧支援など関係者や地域社会に大きく貢献した活動等に対して与えるものとする。

地域活性化しんきん運動・優秀賞・・・中小企業の起業・成長・改善支援等をはじめとする地域の活性化をめざす活動のうち、各々の地域社会の実情と信用金庫の特性に合わせたユニークで、他の範となる活動に対して与えるものとする。

個人賞・・・個人あるいはグループの取組みで、信用金庫職員として他の範となる活動に対して与えるものとする。